

# 都留市ふるさと会館が完成



▲富士女性センター

▲都留市ふるさと会館▲

## 文化活動の拠点

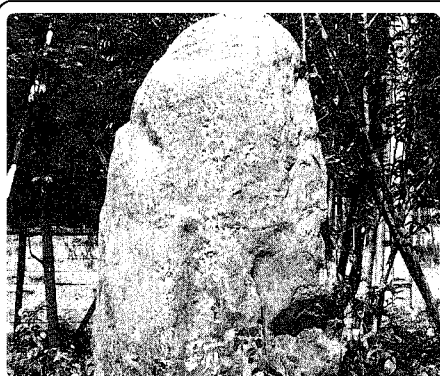
昨年六月から工事を進めてきました『都留市ふるさと会館』がこのたび完成し、六月二十四日落成式が行われました。落成式には都倉市長、赤沢康治市議会議長をはじめ、関係者多数が出席し、テープカットなどを行い完成を祝いました。

完成したふるさと会館は鉄筋コンクリート三階建てで、一階には地場産業の育成と振興を図るために展示ホール・地場産品コーナーを設け、新製品の企画開発展示会の開催や郡内織物のネクタイ、座布団地の外、都留市名産の菓子などの展示即売を行っています。

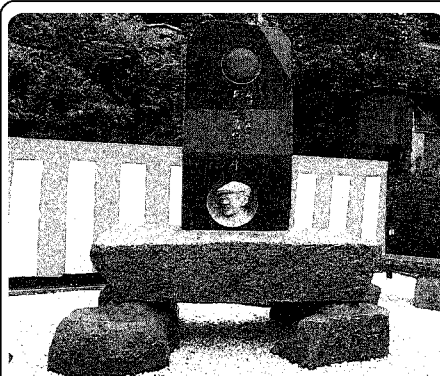
二階には、市民が芸術文化に親しめるアートホールがあります。ここには増田画伯の常設展示場として市の所蔵する絵画を順次展示するほか、市民の芸術の発表展示会場として誰でも利用できるようになっていきます。

三階は趣味のあった仲間同士がサークル活動や生涯学習の場として活用できるような研修室や談話室が整っています。

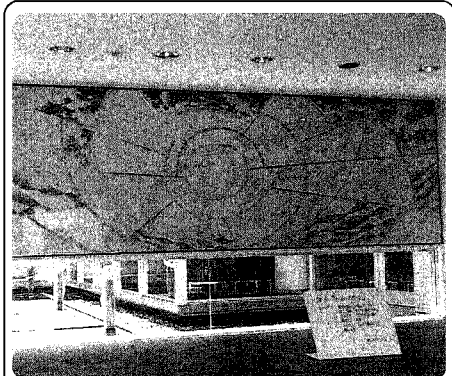
さらに、ふるさと会館は県立富士女性センターと連絡通路で結ばれており、互いに機能を補完し合う中で、市民の学習・文化の拠点として利用されることが大いに期待されます。



奥の細道で有名な松尾芭蕉が流寓生活をこの辺りで送ったといわれています。そのゆかりの地であることの証として芭蕉句碑が女性センター入口前に建立されました。



都留市名誉市民第1号の故増田誠画伯の業績を讃え、画伯の芸術に対する情熱を後世に伝えるため、増田誠画伯記念碑がふるさと会館南側に建立されました。



1階エントランスホールには盛里在住の橋村元弘さんがデザインした「みどりのかぜ」と題した壁画があります。豊かな都留の自然をテーマに美しい緑、清らかな水の流れ、澄んだ空、清々しい雲が表現されています。